

こだま新聞

第38号

平成10年12月

児玉医院 歯科

乳歯は大切か②

先月は乳歯が大切にされていない原因をいくつか述べました。今回は本当に乳歯は大切なのかという点について考えてみましょう。

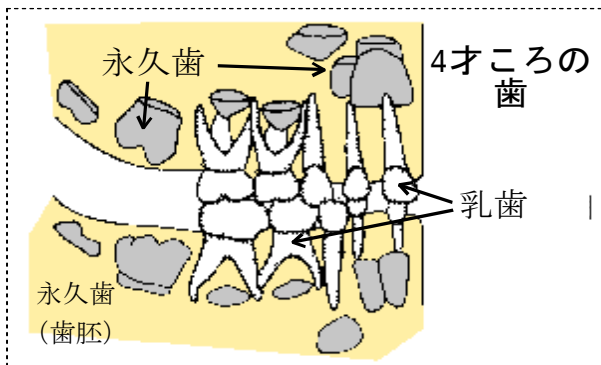
『小児歯科』という小児から大人にかけての歯科治療を専門に研究している人たちは“乳歯の保存が永久歯の歯列不正発生の防ぐ”ことを重要なポイントとして挙げているようです。積極的に歯を移動させて歯並びを直す『歯科矯正』とは異なり、乳歯を早期に失うことで生じる歯の位置移動や萌出の位置異常を防ぐことをいっています。

確かに歯を早期に失うことで第一大臼歯が前歯の方へ傾斜するという現象は多々見られますが“萌出の位置まで変わる”というのは疑問です。なぜなら乳歯が萌出している時期には永久歯の歯胚が顎の骨の中にできていて、乳歯が早期に失われたからといって、その歯胚が移動するとは考えにくいし、歯並びは歯

の大きさと顎の骨の大きさのバランスで決まるからです。

乳歯は『発育時期の栄養摂取』という点と『永久歯の虫歯予防』という点で重要だと考えます。

乳歯が生えている時期は特に頭部の発育が盛んな時期です。この時期に脳が大人とほぼ同じくらいまで発育します。子供が頭でつかちに見えるのはそのせいです。この時期は永久歯が生えてきてもほとんど機能して（噛んで）いません。乳歯が失われると



噛むところが少なくなり、ますので丸飲みに近い状態になります。当然、いくら食べても栄養の摂取量は減りますし、噛む回数が少ないと顎骨の発育にも影響が考えられます。

児童の虫歯予防では養育している大人による食事管理と歯ブラシが重要です。特に歯ブラシは児童任せにしていると、ほとんど効果は期待できません。

乳歯に虫歯が多い場合、まず間違いない永久歯になっても虫歯が発生しています。永久歯の萌出時期に個人差があるため、よく注意して見ていないと知らないうちに永久歯が萌出していることが良くあります。それで、歯科健診に行つて、永久歯が生えていたことを初めて知ることとなります。乳歯の虫歯予防を一生懸命にされている人は、歯ブラシの度に口の中をよく観察します。すると、早い時期に永久歯の萌出を知ることができ、すから、虫歯にかかりやすい萌出したばかりの永久歯の虫歯予防ができます。

永久歯が萌出するまで待たないで乳歯を虫歯から守ってはいかがですか。みなさん。

江戸時代の秋田に長く滞在した田沢湖の付近で亡くなった菅江真澄はここ八郎潟町にも何度か足を運び、当時の様子を日記に残している。その中に虫歯に関する記事があったので紹介します。

『氷魚の村君』

文化七年（一八一〇）正月七日
ここでは七日粥（かゆ）というものはなく、この日初めて雑煮（雑煮）といって、根芹（ねぜり）、ひろめ、福良紫菜（ふくろのり）などを摘んで入れ、餅を食べる。

昨夜から馬場の目（南秋田郡五城目町馬場目）の白山に、七日堂（にちどう）といつて夜籠（よこも）りした人々が帰ってくる。「三日の夜の男鹿（おしか）の餅（もち）の行事はどうだったろうか、雪が深かったから」などと話合っている。

歯の病のある者は、この白山の神に“こまさらい”というものを小さく作り、芽子（はぎ）の折箸（はし）を百膳（ひゃくぜん）分手向けると、必ず歯痛を治して下さるということである。そしてその夜はたくさんの人びとが、夜通しうたをうたい、神の心を鎮め奉るといふ。

【解説】 歯痛の呪いは各地

各様であった。“こまさらい”はチリを集める熊手のことで、江戸の例では、十一月の酉の日、大鳥神社（鷲神社）でも縁起物として熊手を出していた。祭神の土師明神の“はじ”を歯の意にとり、歯の神として、その縁起物と考えられたようである。“はぎ”の箸で正月の雑煮を食べると歯を病まぬという俗信があるのも、“歯木”の意にとつたのであろう。

菅江真澄遊覧記 5から
内田武志・宮本常一 編訳



今月の終了証

今回終了証をお渡しできたのは次のみなさんです

工藤 彰人さん
小野 空見さん
相馬 智美さん
菊地 真美子さん

ご苦労さまでした。

今月の行事

12月
3日 県学校歯科保健大会
5日 秋盛会研修会忘年会
5日 13区町内研修会忘年会
9日 県歯広報委員会
9日 岩手医大忘年会（秋田）
23日 祝日 休診
30日 午後休診
31日 年末年始休診（5日まで）